

# ワークショップ 「日本語フレームネット」

小原 京子（慶應義塾大学）代表

藤井 聖子（東京大学）司会

本ワークショップでは、カリフォルニア大学バークレー校において開発中のフレームネットプロジェクト（以下 FN）との連携のもとに 2002 年から始めた日本語フレームネット（以下 JFN）についての報告を行った（藤井・小原 2003, Ohara et al. 2003, 2004）。特に、バークレー版 FN の設計思想、およびそれに基づいた日本語語彙情報資源・意味タグ付きコーパス構築を実行するための課題を中心に、これまでの成果を討論した。

FN は、フレーム意味論の枠組みをコーパスに基づく英語の語彙意味分析と電子語彙体系構築に実践した大規模プロジェクトである。JFN は、FN と密接な情報交換を進めながら、コーパスに基づく日本語の語彙意味分析と記述を行っている。特に、フレーム意味論、および、FN の枠組みと成果を踏まえると同時に、日英語の対照にも十分に考慮しながら分析を進めている。まず、移動（MOTION）と伝達（COMMUNICATION）という二つの領域について分析・記述している。

本ワークショップにおける各発表は、次の通りであった：

1. 日本語フレームネット概要 小原（発表者）、石崎、大堀、斎藤、鈴木、藤井
2. 語彙記述におけるフレーム意味論 大堀
3. 日本語フレームネットコーパスおよび検索ツール 斎藤
4. 日本語フレームネットにおける「伝達」領域での分析 藤井
5. 評価を伴う伝達動詞：「ほめる」、「しかる」、「おこる」の分析 鈴木
6. 討論・質疑応答

1 では、JFN を概観し、「移動」領域の日本語動詞を例に、フレーム意味論に基づく意味タグ付きコーパスの中身について紹介した。さらに 2 では、FN の理念、特にフレームを用いた語彙記述の方法を理解する一助としてフレーム意味論の発展をたどった。3 では、JFN の分析ならびに意味タグ付け用コーパスとその検索ツールについてデモを行いながら紹介した。4 では、JFN での伝達領域全般での分析の概説をした後、日本語の基本伝達動詞「いう」「はなす」「かたる」「のべる」「しゃべる」の分析例を示した。さらに 5 では、「ほめる」「しかる」「おこる」など評価を伴う伝達動詞の分析例を示した。発表後の討論・質疑応答では、コーパスや、「移動」領域と「伝達」領域の日本語動詞の分析等について、多くの有益な質問・コメントを参加者からいただき、活発な討論が行われた。特に、フレームおよびフレーム要素の設定の仕方、その際の多義や比喩的用法の扱い、複合動詞的用法の扱い、などについて、議論を行った。

FN は本来、大規模コーパスを利用した精度の高い語彙記述を目標としてきた。近年では語彙情報資源構築のみならず、意味タグ付きコーパスへの需要の高まりとともに、新たな意義を獲得しつつある。このような背景を反映してか、多数の方々为本ワークショップに参加していただき盛況であった。今後もプロジェクトを推進していく過程で、JFN の理論言語学、言語教育、言語処理など各方面における可能性を探っていきたい。